

メディアに関する会話が児童の心理状態・友人関係に及ぼす影響

戸谷 朱里

私たちの周りにはテレビや本、インターネットといった様々なメディアが存在する。このような環境の中で私たちは、メディアを通じて得た情報を話題にすることによって友人関係が円滑になるということがある。また、友人関係に変化が見られるだけでなく、普段の心理状態が良くなる（孤独感が下がるなど）ことがあるということも考えられる。

先行研究では、テレビやテレビゲームが友だちとの共通の話題を提供する働きを持ち、中学生や高校生にとってそれらのメディアに触れることが、仲間関係維持のうえでも重要になるということが示唆されている。小学生は、読書によって「友達と同じ話ができる」ということがあると認識しており、他のメディアでも、テレビやテレビゲームと同様の効果が見られる可能性があると考えられる。

そこで、本研究では小学校 5 年生を対象として、テレビやテレビゲームだけでなく、本やマンガといった他のメディアについても取り上げ、友人関係や普段の心理状態について検討することとした。具体的には、メディアについての話題によって、友人関係（友だちの数、親友の数、友だちと話す時間、友人満足度）また、普段の心理状態（孤独感、ストレス、相互理解活動）に影響が見られるのかを 2 時点のパネル調査によって検討した。

本研究の分析対象者は、第 1 回質問紙調査、第 2 回質問紙調査両方において回答が得られた小学校 5 年生 370 名（男子 193 名、女子 177 名）であった。主な結果は、次の 5 点である。

- 1) テレビ、本、マンガ、テレビゲームについて話題にするほど、普段の心理状態がよくなる（ストレスが下がる、相互理解活動が高まる）ということが示された。
- 2) テレビ、本、マンガ、テレビゲーム、CD、ビデオ・DVD、携帯電話について話題にするほど、友人関係がよくなる（友だちの数が増えるなど）ということが示された。
- 3) テレビ、本、マンガ、インターネットについて話題にするほど、そのメディアについての会話時の肯定的感情が高まることが示された。
- 4) CD、インターネット、ラジオについて話題にするほど、普段の心理状態が悪くなる（孤独感やストレスが高まる）ということが示された。
- 5) 普段の心理状態にポジティブな影響を及ぼしたメディアでも、「テレビ番組で使われた歌や曲について」や「本のストーリーについて」など、話題内容によっては普段の心理状態にネガティブに働く場合もあった。

今後の課題として、より長い期間を設定した複数時点での調査の実施によって、メディアに関する話題が小学生の普段の心理状態や友人関係に及ぼす影響を検討していくことが望まれる。

（指導教員 鈴木佳苗）